

2020.08.19

Dance Base Yokohama



©Takayuki Abe

DaBYコレクティブダンスプロジェクト

第1回 新作トライアウト&実談演習を8月30日に上演

Dance Base Yokohama (以下DaBY) は、異ジャンルのクリエイターがコレクティブな手法で協働して創作活動を行う新プロジェクト「DaBYコレクティブダンスプロジェクト」を開始しました。第1回 新作トライアウトを、2020年8月30日(日)にDance Base Yokohamaにて行います。

本プロジェクトには、クリエイターとして、DaBYアソシエイトコレオグラファーである鈴木竜が演出・振付を務めるほか、20~30代の若手音楽家、映像作家、ドラマトウルク、ダンサー、制作、また建築のバックグラウンドを持つ舞台美術作家が参加。従来のダンスの枠に囚われないクリエイターが集まり、各自の専門性・アイデアを生かした議論を重ね、複数の視点による実験を行うことで、新型コロナウイルス感染症が拡大する今を生きる新時代のアーティストたちによる創作の在り方を模索していきます。

半年以上前から議論を始め、2020年7月に本格始動した本プロジェクトでは、「認識のズレ」をテーマに、クリエイションの中でうまれる要素を、「fragment (かけら)」と称し、映像・音・写真などの様々な媒体を用いた小作品として定期的に発表します。「fragment」を公開することで、創作の過程を可視化するとともに、トライアウトにおいては、それらをいかに構築しうるのか、さらなるパフォーマンスアーツの可能性を探ります。初回のfragment公開は、8月20日(木)14:00より、YouTubeのDaBYチャンネル (<https://www.youtube.com/c/DanceBaseYokohama>) での発表を予定しています。

尚、トライアウトの様子は、DaBYチャンネルにてライブ配信いたします。また、終演後には、「実談演習」として、参加者全員の記名式による意見交換会をクロードで開催し、収集した意見を今後の創作の発展のためのヒントとさせていただきます。

公演情報

公演名	DaBYコレクティブダンスプロジェクト 第1回 新作トライアウト&実談演習	
上演日時	8月30日(日) 16:00~16:45 (予定)	
参加クリエイター	演出・振付	鈴木竜 (DaBYアソシエイトコレオグラファー)
	ダンス	植田崇幸 / 中川賢 / 島中真濃
	音楽	タツキアmano
	舞台美術	一色ヒロタカ / 宮野健士郎 (オンデザイン)
	映像	大宮大奨
	ドラマトゥルク	丹羽青人
	制作	田中希 (DaBY)

※本プロジェクトには、当初、ダンサーの高橋優香が参加予定でしたが、都合により不参加となりました。

上演形式	【ライブパフォーマンス】 場所：Dance Base Yokohama 横浜市中区北仲通5-57-2 KITANAKA BRICK&WHITE BRICK North 3階 【ライブストリーミング】 DaBYチャンネル (https://www.youtube.com/c/DanceBaseYokohama) にて配信
------	--

入場料金	【ライブパフォーマンス】 2,000円 【ライブストリーミング】 無料
------	--

発売日時 8月20日(木)18:00より発売

購入方法 Peatix (<https://daby-tryout2.peatix.com/>) よりお申し込みください。

※チケット申し込みには事前のDaBYメンバーズ登録が必要です。

実談演習の実施概要

上演後、現地及びオンラインにて、トライアウトをうけた、記名式によるクローズドの意見交換会を開催します。創作活動の発展のため、忌憚なき意見をお伝えいただける皆さまのご参加をお待ちしております。

日時 8月30日(日) 17:00~18:30 (予定)

場所 Dance Base Yokohama もしくは Zoom にて開催

参加申込 参加ご希望の方は、DaBY (info@dancebase.yokohama) までお問合せください。

参加方法 トライアウト終了後に、実談演習ご参加の皆さまにZoomミーティングのURLをお送りします。現地にてご参加される方には、当日会場にてご案内を致します。



Dance Base Yokohama

プロフェッショナルなダンス環境の整備およびダンスに関連するあらゆるクリエイター育成に特化した事業を企画・運営する、ダンスハウス。アーティストックディレクターを唐津絵理 (愛知県芸術劇場シニアプロデューサー) が務め、複合芸術であるダンスの発展のため、振付家やダンサーといったアーティストのみならず、音楽家、美術作家、映像作家、照明デザイナー、音響デザイナー、またプロデューサーやプロダクションスタッフ、批評家、研究者、そして観客の皆様の交流拠点になることをめざしています。Dance Base Yokohama が、ダンスを巡る多くの人々が垣根なく集える磁場=プラットフォームとなるよう、DaBY(デイビー)の愛称をつけました。クリエイションを行うレジデンススペースでありながら、地域のアーティストや市民との交流も行い、ワークショップや実験的なトライアウト公演の実施や、ダンスアーカイブ事業など、さらなる多様な試みを展開予定です。

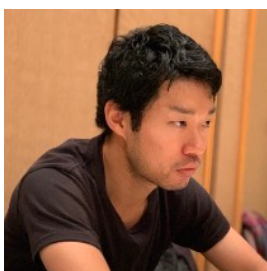
クリエイタープロフィール



©Takayuki Abe

鈴木竜 (演出・振付 / DaBY アソシエイトコレオグラファー)

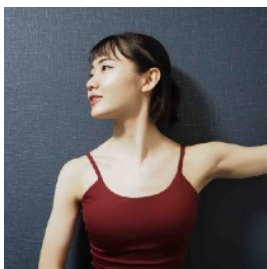
横浜に生まれ、山梨・和歌山・東京で育ち、英国ランベール・スクールで学ぶ。これまでにアクラム・カーン、シディ・ラルビ・シェルカウイ、フィリップ・デュクフレ、インバル・ピント / アブシャロム・ポラック、エラ・ホチルド、平山素子、近藤良平、小尻健太、夏木マリなど国内外の作家による作品に多数出演。振付家としても横浜ダンスコレクション 2017 コンペティションIで「若手振付家のためのフランス大使館賞」などを史上初のトリプル受賞するなど大きな注目を集めており、作品は国内外で多数上演されている。

**植田崇幸** (ダンス)

1990年兵庫県姫路市生まれ。俳優、ダンサー。桜美林大学総合文化学群演劇専修卒業。桜美林大学在学中は演劇に明け暮れ、卒業と同時にコンテンポラリーダンスの作品にも出演し、現在は俳優としてもダンサーとしても活動している。また、自身で監督、撮影、編集を行いミュージックビデオを制作している。俳優として夏木マリ、今井朋彦、小野寺修二、山本卓卓の演出作品に、ダンサーとして近藤良平、小尻健太、北尾亘、鈴木竜の振付作品に出演。CoRich優秀俳優賞受賞(2010)。

**中川賢** (ダンス)

6歳から現代舞踊を和田朝子に師事。関東国際高校演劇科卒業。日本大学芸術学部演劇学科洋舞コース卒業。2003年～2009年まで、現代舞踊公演『火の鳥』主演のほか『回転木馬』カーニバルボーイ役や『イーストウィックの魔女たち』マイケル役などミュージカルにも出演。2009年から日本初の公立劇場専属舞踊団新潟市りゅーとぴあ「Noism1」にて活動。2018年『ROMEO & JULIETS』ティボルト役で退団した。その後東京に戻り、平山素子、中村しんじ、川野真子など作品に出演。ダンスのみならず様々なジャンルに挑戦していく。

**畠中真濃** (ダンス)

幼少期よりクラシックバレエを学び、16歳よりコンテンポラリーダンスを始める。お茶の水女子大学舞踊教育学コースにて舞踊創作法を学ぶ傍ら、同大学の創作舞踊公演や二見一幸の作品などに出演。2019年に自身の振付作品にて第2回ワールドダンスコンペティションin Niigata 第2位、新潟市長賞を受賞するなど、精力的に活動している。



©Haruka NAKAMURA

タツキアマノ (音楽)

1996年1月1日生まれ。国立音楽大学卒業。金子勲矩監督作品「Locomotor」「The Balloon Catcher」の音楽を手がける。両作品ともに国内外の映画祭で上映、またはノミネートされた。2020年アヌシー国際アニメーション映画祭にて「The Balloon Catcher」がノミネートされる。他にもアニメーション作品やインスタレーション等に様々な名義で楽曲提供をしている。作曲を丸山和範氏に師事。

クリエイタープロフィール



©Takayuki Abe

一色ヒロタカ (舞台美術 / オンデザイン)

建築家(オンデザイン studio Irodori建築設計事務所)。千葉県生まれ。千葉工業大学大学院にて建築を専攻し、現在は、横浜を拠点に、「身の周りの社会を、楽しく動かすこと」をテーマに、住宅から公共建築、ブランディングやプレイスメイキング、限界集落での研究(フィールドワーク)など、建築設計を取り巻くデザインも含め、社会へアプローチしている。Dance Base Yokohama ではクリエイティブパートナーとしてダンスハウスの設計を担い、建築空間の視点から、ダンスと都市との繋がりやの思考を試みている。

**宮野健士郎** (舞台美術 / オンデザイン)

建築家。北海道出身。2017年札幌市立大学デザイン学部、2019年東京工業大学大学院を修了。現在はオンデザインでパートナーとして活動している。大学在学中でのストリートダンスや舞台演劇の出演経験から「身体芸術的な美」に興味を持ち、集合住宅、店舗や会場構成の設計を通して人間の身体やふるまいから創造される空間を探る。Dance Base Yokohama では、都市と身体の関係性を建築的視点で分析し、コンテンポラリーダンスを分野の異なる専門家と共につくりあげている。

**大宮大奨** (映像)

ダンサー、振付家、映像作家。18歳よりNYを拠点に活動。13年伊インターナショナル・ダンス・フェスティバルにて日本人初新人振付家として優勝。14年米NYにてジェイディン・ワン・アワード受賞。帰国後日本を拠点にフリーランスのダンサー・パフォーマーとして、シディ・ラルビ・シェルカウイ、インバル・ピント&アブシャロム・ポラック、エラ・ホチルド、辻本知彦、大植真太郎、柳本雅寛、長谷川寧、森山未来、大巻伸嗣、蓮沼執太、ジャン＝ポール・グード、ライアン・ハフイントンなどの作品に出演、振付に携わる。近年では映像作家としてダンス主体の作品を残し、監督と振付家を両立する映像表現を発表する。



©tatsukiamano

丹羽青人 (ドラマトゥルク)

1996年、愛知県生まれ。6歳から井澤正子にクラシックギターを学ぶ。小学生時代には伊藤キム&山下洋輔『跳ぶ教室』(蟹江小学校)、近藤良平振付『森の中のパレード』(愛知万博)等に出演。11歳からソルフェージュを学び、14歳でアコースティックギターに転向。学生時代には、福祉施設などでボランティアとしてギター演奏を行う。幼少から多くの舞台作品を鑑賞する中で、音楽と身体との関係について関心をもち、ニブロール、港大尋などの舞台芸術ワークショップに参加。現在、国立音楽大学音楽情報専修に在籍しながら、音楽とダンスの関りについて哲学/理論と創作/実践の双方向から研究中。趣味は読書と昆虫採集。



©Takayuki Abe

田中希 (制作 / Dance Base Yokohama)

Dance Base Yokohamaアシスタントディレクター。

お茶の水女子大学 文教育学部卒業。幼少期からクラシックバレエを続ける。大学卒業後、航空会社で客室乗務員として国内外の様々な路線に乗務。その後、IT企業の広報を経て、日本国内におけるダンスの普及発展をめざしてダンスに携わることを決意。DaBYに立ち上げより関わり、現在は主に広報及び制作を担当している。